

「海ごみについて考えよう」



那間小学校 4 年生

講師：誇れるふるさとネットワーク

池田 龍介さん

令和 2 年度与論町海洋教育

10 号

昨年度から与論町教育委員会では日本財団・東京大学海洋教育センター・笹川平和財団海洋政策研究所からの支援を受け海洋教育パイオニアスクールを導入しました。町内の小・中・高等学校が連携して行う「地域連携型」というスタイルで海を通じた学びの活動を行っています。与論町教育委員会を含め全国 10 の地域が「地域連携型」で海洋教育パイオニアスクールプログラムに参加しています。

12 月 17 日、那間小学校 4 年生の海洋教育授業を見学させていただきました。講師は誇れるふるさとネットワーク・池田龍介さんで、「海ごみ」に関する授業でした。

授業の始めは、海の写真を見ながら、「経験したことのある海アクティビティ、サンゴを見つけた場所」また「どこで、どんな漂着物を見つけたか」など海での経験を伝え合いました。

その後地図を見ながら、与論島に漂着する海ごみはどこから来たのか、そして与論島・日本から流れた海ごみはどこへ漂着するか想像し、それぞれの予想を発表していました。子どもたちからは「近くてどこにもひっかからないから」といった理由で、日本から近いアジア諸国や太平洋に浮かぶ島々の国・地名が多くあがりました。

その後、海ごみが生き物に与えている影響を振り返りました。池田さんから「海ごみが原因で、700 種の海洋生物に悪影響が出ていると報告されています。」と聞き、改めて海ごみを生き物が食べてしまう前に、悪影響を及ぼす前に海岸から取り除くことの大切さを教えていただきました。



海辺の生き物（今回は鳥）がどれくらいのマイクロプラスチックを食べてしまっているか、実際与論島で回収されたマイクロプラスチックを使って予想しました。「とがっているものを食べたら、おなか痛くなりそう」など実際生き物が間違えて食べて

しまうことを考えながら、グループごとにマイクロプラスチックの量を決めていました。



授業の終わりには、以前授業で発表した「私のエコ宣言」の振り返りを行いました。池田さんから「教えてもらうことも、自分で考える事もどちらも大切。自分で取り組むことをもう 1 度考えて、楽しく続けられることをしましょう！」とのメッセージがありました。授業を通して学んだことはもちろん、「私のエコ宣言」で考えたことを振り返ることで、改めて自分たちが過ごす海との関わり方を考えることが出来た授業であったと思います。

取材：

与論町海洋教育推進協議会事務局

取材日：2020.12.17